

上羽 勝衛 纂
小學會話篇

特34

939

第一卷

081673-001-4

特34-939

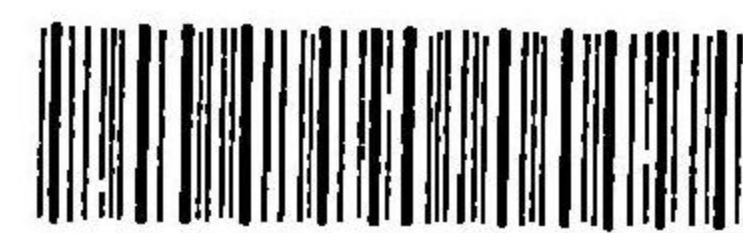
小学會話篇

上羽 勝衛 / 編

卷1

M7

DAC-6489



上羽勝衛纂

小學會話篇全三冊

明治七年二月 大觀堂藏版

453
939

上羽勝衛纂小學會話篇序

言以達意文以記言。有聲
之文而文無聲。之言是歐洲
各國之學所以易入也。獨我邦
言自以言而文自文。判然二樣
各為一體。而其由來既久不可

上羽勝衛纂

小學會話篇全三冊

明治七年二月 大觀堂藏版

特34
939



上羽勝衛纂小學會話篇序

言以達意文以記言、有聲

文而文無聲、之言是歐洲

各國之學所以易入也獨我邦

言自言之而文自文判然二樣

各為一體而其由來既久不可

改也特受各地之言語雜駁
鄙俚東西異其音都鄙殊
其調奧薩人相會則宛如異
邦殊域之人必用譯不能解
也是所以小學會話之科不
可闕而遐僻之兒不可不尤習

熟也余無似承乏學務常憂
會話無善書因採輯作此篇
庶幾乎多童語學之一助
矣

明治七年 第一月

上羽勝漸識

勝衛纂小學會話篇卷之一

第一章

今日も。善き。天氣で。御坐

りまさ。○好く。晴れました

○少く。陰りました。降らね

バ。宜く。御坐りませ。○とて。も。
雨み。成りま。ーやう。○困コトつ。こ。
天氣で。御坐りませ。○後み。ま。
晴れま。ーやう

第二章

父上さん。私ハ。學校へ。参
りませ。○母上さん。只今。學
校から。歸りませ。た。○兄さ
ん。私み。筆を一本。下さり
ませ。○姉さん。其針を。御借カ

し下され

第三章

今日も。寒く御坐りませ。大
きみ。暖みおりました。強ひ
暑さで。御坐りませ。昨今ハ。

大分涼しく。おりました。御
機嫌よく。御替りも。御坐り
ません。相變らむ。御壯ん
で。目出度。存じませ

第四章

彼方々。何を爲さりますと。を
い。手習をして。居ます。○彼
方へ。能く。御勉強。ふさり
ます。○彼人へ。學文を。怠り
て。いけません。○彼娘へ。能

く。書物と。覺つます。○彼々。
才子で。御坐りますと。○私々。
愚鈍で。困ります。

第五章

彼方へ。之を。御好まか。○君

ま。御嫌ひで。有りまーやう
○私ハ。好で居ります○甘き
物を。多く食ひまハ。養生に
宜く有りません。少ーづ。
御あがりなされ○酒を。飲ま

ぬ方が。宜く御坐ります○午
飯ハ。御あがりか○をい。食
ひまーた

第六章

昨日ハ。箇様な事が。有りま

した○夫ハ。實で。御坐りま	まか○私ハ。詐りを。申しま	せん○夫ハ。虚でハ。有りま	さまい○成ほど。左様で。有	りましたう○私ハ。左様思ひ
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

ます○私ハ。君の言を。信ト	まき○私ハ。隠さきを。申しま	す○夫ハ。嬉し。御坐りま	ま
---------------	----------------	--------------	---

第七章

私を。出来ません。君ハ。能
く。御出来なさる。私共を。
毎日。精出して。致します。
君等ハ。何故。爲さるぬか。
彼方ハ。仕度。有りませまい

私を。仕事を。爲て居ませ。
御誓古が。濟んだから。私宅
まで。御出下され。有
り難たう

第八章

彼方ハ。昨日。御習ひの所を。
 覺つて。御在ふさるか。私を。
 忘れました。私ハ。忘れぬ様。
 跡さらし。致します。君を。記
 臆が強ふ。御坐りませ。私を。

及びません。誰も。君にも。
 及びますまい。御聞のことハ。
 皆御忘れハ。有りませませい

第九章

君の。御讀ふさるハ。何の書

で。御坐りませ。是ハ。小學
讀本で。有りませ。君の本を。
私小。暫時御借下され。易い
事で。御坐ります。之と。上
げませ。やう。辱けなく。存知

ませ。私ハ。能く。讀ませ
ん。彼方ハ。皆御存知で。有
ませ。やう

第十章

其處で。話して居るハ。何方

○私で。御坐りまゝで○高い聲
で。御話—ふされ○最少し。
高く○夫でふ。低い○彼人の
聲ハ。ちつまと。分りまゝで○
彼女の聲ハ。志つかり—て居

まゝで○君ハ。私に。御話ふさ
るか○固より。御話致—ます
○何故彼を。話—ませんか○
彼ハ。何にも。知りません○
皆左様に。申—まゝで○左様な

事ハ。有りませまい。○いや。
私ガ。請合ひませ。御疑ひを
さるな

第十一章

君ハ。何を爲て。御在家さる

○私を。書翰を。書て居ませ
○私を。返書と。書おした。○
何故。さつに。御書かされる
○彼人ハ。善くかきませ。○此
處の文句ハ。悪く有ります

○私を一行。けいしました。○彼
方の筆は。好く有りますか。○
私に。一二本。御所望申たい
○之は。餘り細い。○之は。先
が。切れて居ます。○之は。用

に。立ません。○之を。使ふて。
御覽あされ

第十二章

今何時で。有りますか。○彼方
の時計と。御覽あされ。○九時

で。御坐りませ。○十二時より。
少一前で。御坐りませ。○最う。
左様。○晩く。御坐りませ。か
○御聞ふされ。今十二時を。
打ちました。○時計ハ。便利な。

物で。御坐りませ。○時計が無
く。誰も時を。知りませ。ま
い

第十三章

君ハ。御いくつ。○私ハ。十一

歳に。成りまゐる。○私ハ。彼
方ニ。一つ多く。御坐りまゐ
○左様。御成りなされるか。○彼
方の。御妹も。御幾くつ。○十
歳に。成りまゐた。○御尊父と

んも。御幾くつ。○五十歳で。
御坐りまゐ。○私ハ。左様な。
御歳とい。思ひませんだつ。○
○餘程。御若く。御坐りまゐ。
○彼方の。友達の。何某君も。

壯んで。居まきか。○彼人ハ。
昨年。死ました。○夫ハ。氣の
毒小。存知まき。○彼人ハ。善
い人で。有りました。

第十四章

私多。眠ひ。御先小。休みま
し。やう。○彼方多。御寐かさる
か。○彼女ハ。大きに。眠ひ様
子。○私も。次第。眠くなつ
て来た。君ハ。御寐かさるぬ

か○私ハ。昨夜少ーも。寐か
かつた○私ハ。目グ覺て。眠
くふい○彼方ハ。毎夜。何時
小。御寐かさるう○私ハ。十
時に。床小就きまます○餘り夜

更まで。勉強まると。體に宜
く。有りません

第十五章

私多。最う。起きまーやう○
君ハ。餘り早い○最早。起き

る時分で。御坐りませ○急ひ
 で。御起きあされ○私ハ。今。
 被物を。被て居ませ○君の羽
 織ハ。襟が折れて。居ません
 ○帶と。睨と。御締ツミあさし○

彼方の衣物ハ。縞で御坐りま
 せう○私の衣物ハ。形付カタで。
 御坐りませ○夫も。絹で。有
 りませう○之ハ。木綿で。御
 坐りませ○紬でも。御坐りま

せん

第十六章

君も。御用が。有りませから
御遠慮。爲さるな。思召次第
に。爲されまし。爲ましやう

か。爲ませまい。私の出来
るだけ。爲ましやう。私でも。
出来ませまい。どう。出来
そふ。物。私も。何ふも。爲
まい。明日へ。屹度。爲まし

やう。相違御坐りません

第十七章

天氣ハ。何様で。御坐りませ
○快晴に。成りまゝした○結構
ふ。天氣で。御坐りませ○毎

日。鬱陶敷き。天氣で。御坐
りませ○霰が。降出ました。
程かく。雪に。爲りまゝやう
○實ふ。長閑さ日和で。御坐
りませ○風が。和ぎまゝした○

雷グ。鳴りまま。○何卒。一雨
欲う。御坐ります。○好い。潤
で。御坐りました

第十八章

外方も。御機嫌能く。御坐り

ままか。日出度う。存トまま
○相變らむ。達者で。居ままま
○好く。御出下され。○今日
を。緩々御話し。下されまませ
○何も。有りまませんけれ共。

午飯を。進せまーやう○夫へ。
 有り難う。存トまま。どうぞ。
 御構ひ。下さるな○少ーも。
 御構ひ。申ーません○何ぞ。
 御好きふ。御取ふされ○粗末

の品で。御坐りませ○煮肴が。
 宜く。御坐りませう。鮮魚が。
 宜ふ。御坐りませか○私を。
 何れも。好まませ○自由に。
 戴きまーやう。必む。御心配。

下さるな。○遠慮。致しません
○今日。存懸なく。大きに
戴きました。○最少。御上り
ふさい。○私。最。何ふも。
戴られません

第十九章

私。今。學校へ。出る處で。
御坐りませ。○御急ぎなされ。
最早。九時近く。御坐りませ
○先生。只今。出ました。何

方も。御早う○何故。箇様に。
遅く。出ふされた○私ハ。出
前ふ。用事ガ。有りました故。
延引致しました○左様で
有るまい。朝寐致きで。有ら

う○未。面も。手も。洗ひま
せぬふ○左様ふ。不行儀ふて
ハ。相濟まぬ○御免。下さり
ませ。是から。屹と。改めま
き○精出して。替古を。致せ

八尋會話篇 卷之二
○學校でハ。決して。騒ぐ事
ハ。ありませんぞ

第二十章

君等ハ。直小。御下り。成さ
れまきか○私共ハ。此れから。

花看に。参りまき○私ハ。父
小附て。魚釣りに。参りまき
○彼方ハ。舟で。御出たらふ
○私ハ。親類の方まで。母の
使小。行きまき○彼方ハ。何

處小。御出か。私ハ。是非。
彼處へ。行く筈で。御坐りま
そ。君と。御同伴。致しま
やう。彼人へ。伯父さんの方
へ。行きました。私ハ。叔母

に。用事ガ。御坐りませ故。
失敬おがら。此所から。御別
れ。申しま。やう

第二十一章

彼御方へ。善き人で。御坐り

ままを○何某公へ。當時の。御
 英才で。御坐りまを○誰殿へ。
 大きか。手柄テガラが。有りました
 ○何先生へ。比ヒタひあき。博識
 で。御坐りまを○何君へ。學

友中の。第一等で。御坐りま
 を○彼小兒へ。利口か人で。
 御坐りまを○彼へ。狡猾か者
 で。有る○彼女へ。賢サトシこまき。
 生質で。御坐りまを○彼人へ。

勉強家で。御坐りませ。○彼男
ハ。惰生で。御坐りませ

第二十二章

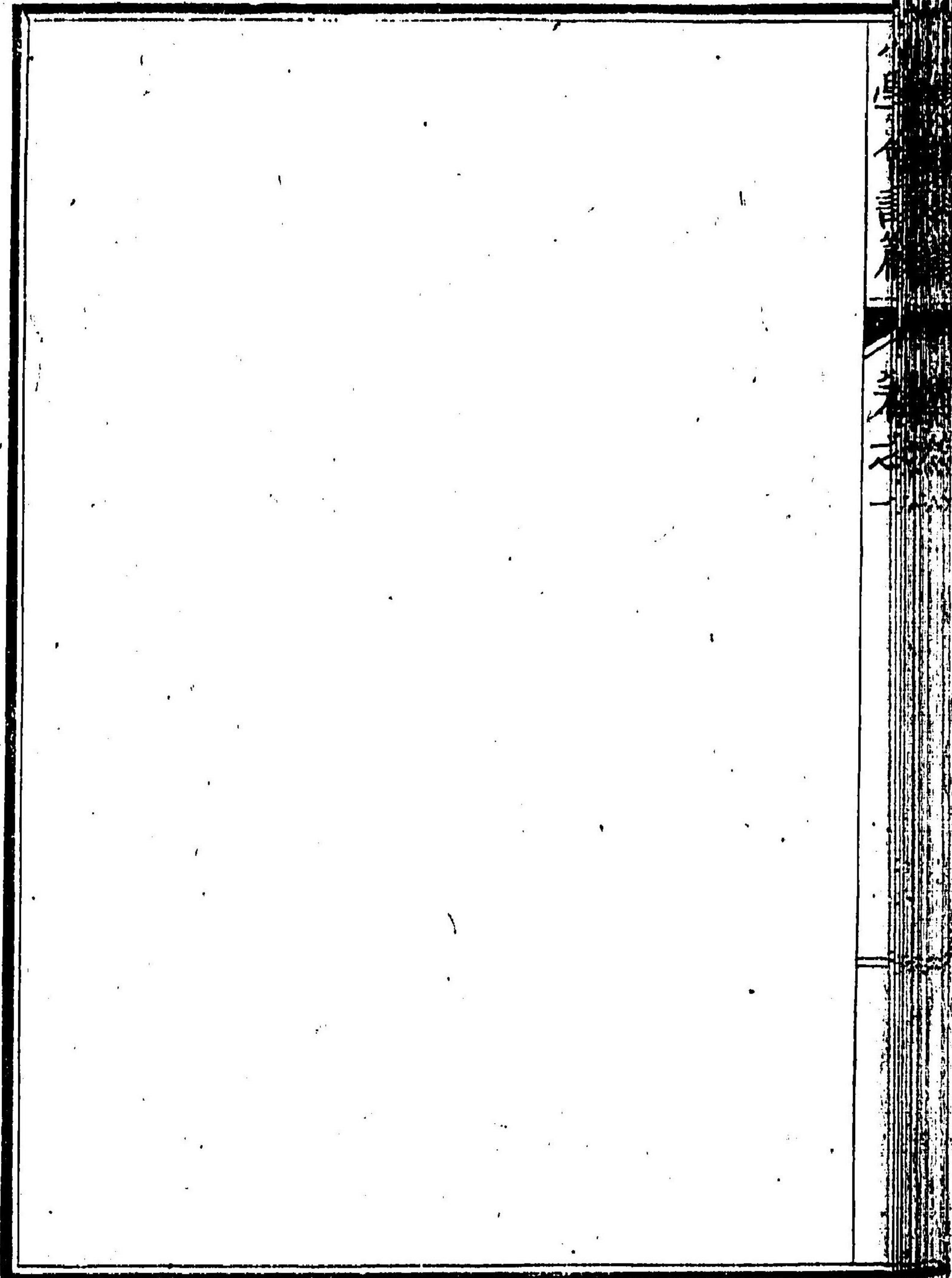
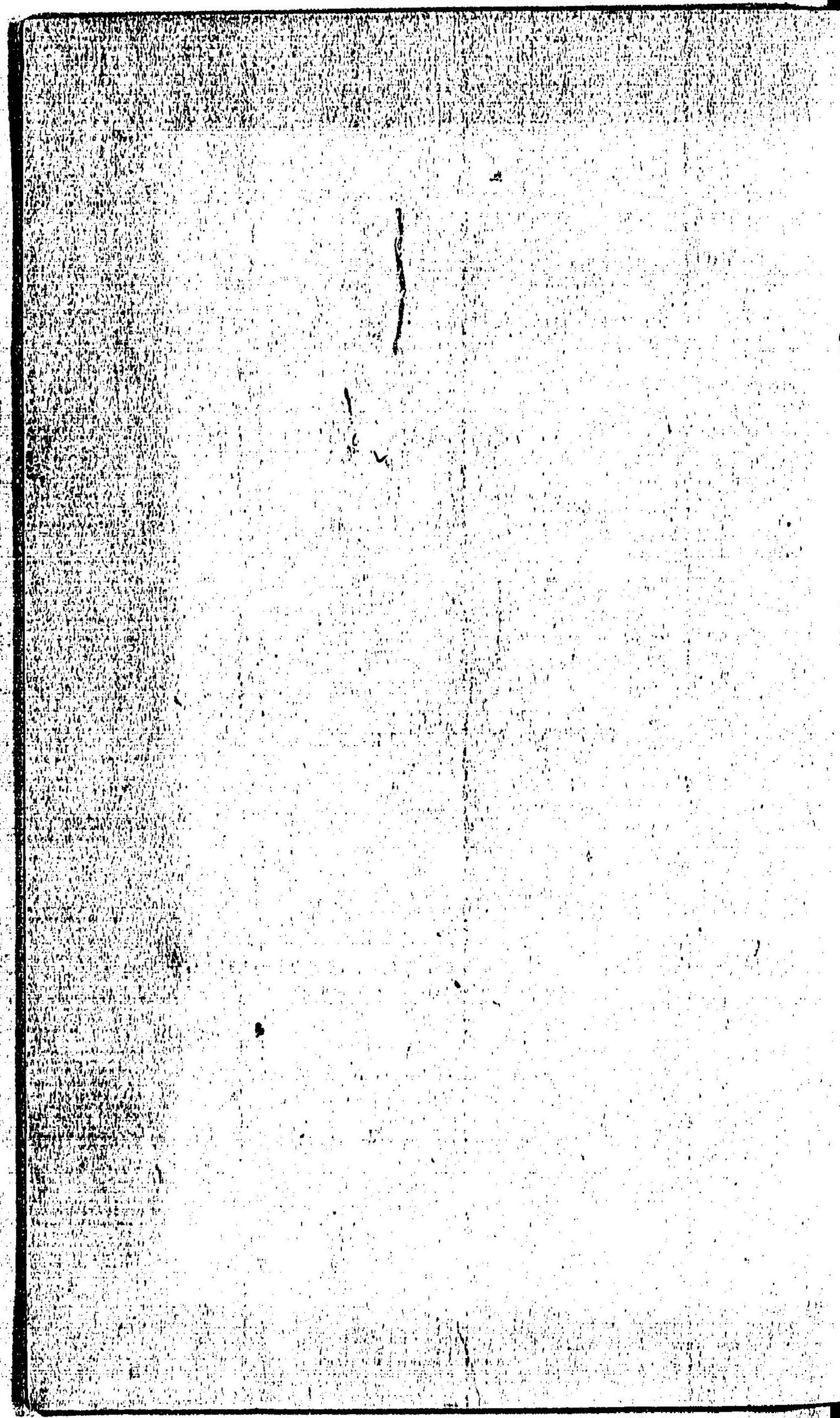
君ハ。御不快の。御様子小。
見受ませ。○私ハ。昨夜うち。

少。風邪氣で。御坐りませ
○時候が。悪う。御坐りませ
うら。別して。御用心。あさ
りませ。○御妹の。御病氣ハ。
如何で。御坐りませ。○彼ハ。

次第小。快方小。成りまきる
○私ハ。頭痛グ。致しまき○
早く。薬を。御飲おされ○養
生ガ。届うぬと。強くおりま
き○彼人ハ。久しひ。病氣で。

御坐りまき○漸く。全快小。
爲りました○私ハ。此とも。
知りません

上羽勝衛纂小學會話篇卷之二終



通志卷之二

